

高知県教育委員会 会議録

平成26年9月臨時委員会

場所：教育委員室

(1) 開会及び閉会に関する事項

開会 平成26年9月11日(木) 10:00

閉会 平成26年9月11日(木) 10:40

(2) 出席委員及び欠席委員の氏名

出席委員	教育委員長	小島 一久
	委員	久松 朋水
	委員	竹島 晶代
	委員	八田 章光
	委員	中橋 紅美
	委員(教育長)	田村 壮児

(3) 高知県教育委員会会議規則第9条の規定によって出席した者の氏名

高知県教育委員会事務局	教育次長(総括)	勝賀瀬 淳
〃	教育次長	中山 雅需
〃	教育次長	永野 隆史
〃	参事兼教職員・福利課長	彼末 一明
〃	教育政策課長	有澤 功
〃	学校安全対策課長	沢近 昌彦
〃	小中学校課長	長岡 幹康
〃	高等学校課長	藤中 雄輔
〃	特別支援教育課長	川村 泰夫
〃	生涯学習課課長補佐	前島 正二
〃	新図書館整備課長	渡辺 憲弘
〃	スポーツ健康教育課長	葛目 憲昭
〃	教育政策課課長補佐	中平 貢正
〃	教育政策課教育企画担当f-7	溝渕 松男 (会議録作成)
〃	教育政策課主任指導主事	葛原 彩子 (会議録作成)

(4) 議事の概要及び教育長等の報告の要旨

【冒頭】

委員長 9月臨時委員会を開催する。

教育長 (提案説明)

本日の付議第1号は、高知県議会9月定例会に提出予定の報道解禁前の議案のため非公開として取り扱うこととする。

賛成の委員は挙手をお願いする。

各委員 全員挙手

委員長 それでは、付議第1号は非公開の取扱いとする。

【付議第1号 平成26年度高知県一般会計補正予算に係る意見聴取に関する議案(教育政策課)】

○教育政策課長、高等学校課長、スポーツ健康教育課長、小中学校課長説明

○質疑

委員	高等学校課のグローバル教育推進事業について、ICTを活用するという一方で、高知南高校と高知西高校にタブレットPCとWI-FIシステムを導入するということが、導入するのは今年度できると思うが、主体的にどこが進めるのか。両校の先生方に進めてもらうということか。
事務局	グローバル教育推進委員会で外部委員等のご意見をいただきながら、教育センターを中心にプログラムを作る。それを先生と生徒に試行的に動かしてもらう。すぐにタブレットPCを導入するというのではなく、まず実態に合ったしっかりとしたプログラムを作り、それを動かすためのツールとしてタブレットPCを使っていく。まずはプログラムを作り試行する。その際にはPCの使い方や、どんなソフトを入れたらいいかということも推進委員会で議論いただきながら、1月くらいから1年生に使用させ、2年生に上がって実際にきちんと使っていけるようにしたい。WI-FI環境は1・2年の教室に十分対応できるようにしていきたいという考えである。
委員	今年度導入するタブレットPCは42台が一つの学校の1セットというイメージか。
事務局	全員が使う場合は1クラス分である。グループ学習をする場合においては、1クラスに10台あれば、数人のグループで1台使える。
委員	高等学校における学力向上対策の数学対策の教材の必要性は分かったが、一番の課題は家庭学習を半分以上の生徒がしなくなっていることである。その原因が基礎力がないからということはあるが、この教材を作ることで家庭学習をするようになるのかすごく疑問である。どうしたら家庭学習をさせることができるのか、何か対策を打たないとこの教材が生きてこないという不安がある。何か策を考えた方がいい

事務局	<p>いと思うが。</p> <p>まさしく、ツールは作ったが、実際にそれを子どもたちが使い、教員がうまく誘導して使わないと意味がない。教材を作るとともにどういう形で導入するのか考えていく。今、各学校で学力定着把握テストを実施しどういう課題があるか、高等学校課から指導主事が学校に行ってそれぞれの学校と話をしているので、そのやり取りの中で、そのような形で教材を使っていくのか、特に予習復習にどうつなげていくのかを考えていかなければならないと考えている。教材作りと活用方法を一緒にセットで考えている。</p>
委員	<p>具体的にどうするのか。</p>
事務局	<p>今も学習支援員を活用した長期休業中あるいは放課後の補習を実施しているので、そのような場面で自分がどこでつまづいているのか把握して学習し、もう一度家で学習する。あるいは数Ⅰの授業の前に自分がつまづいている所を5分でも学習させて授業に臨ませるといったことを、今までの取組にうまく入れていき、生徒が新たなものとしてやるという形にしないように進めていきたい。</p>
委員	<p>家庭学習をしない生徒が、1年生の4月に22.0%だったのが、9月で39.0%になり、2年生の4月には51.6%と半分以上が家庭学習をしなくなるというのは大変ショッキングであり、有り得ないことである。これを抜本的に解決しようとする、数学の教材も必要だがもっと他にやらなくてはいけないことがあるように思う。例えば宿題の出し方がうまくいっていないということなどはあるのか。</p>
事務局	<p>それもあるが、高1の段階で、高等学校に入って学ぶということに対しての意識付けを、現在も中退防止の仲間づくり合宿等いろんな4月当初からの対応をしているが、そういうことも合わせてやっていかなければいけないと考えている。</p>
委員	<p>ぜひ、いい対策をお願いしたい。</p> <p>続いて、スポーツ推進プロジェクト検討会は残り半年でかなり大きな金額の予算だが、これは中央から委員を呼ぶことにかかるということか。</p>
事務局	<p>主に報償費である。</p>
委員	<p>プロジェクトを立ち上げるということは財産だが、これまでにこういうことのベースになる取組はなかったのか。</p>
事務局	<p>今までの現状もあり、なお現在調査を行っている。具体的な市町村の施設や教員の部活動に対する思い、競技団体の課題、また、事務局が感じ取っていることをあわせて検討会に持ち込み、協議する予定をしている。今までの検討を引き継ぎながらやっていく。</p>
委員	<p>残り半年しかないが、実施計画の策定なのでかなり具体的にどこで何をするか今年度決めなければ来年度動けない。また、今から実施計画を作って、次年度の予算に間に合うのか。</p>

事務局 委員	計画の策定は2月末になるが、骨子は11月末に作る予定である。 小中学校課の学力向上対策の教材作成の意義はわかるが、それをどう活用できるかである。配布は全校ということだが、どこまでやらせるという目標はあるのか。
事務局	この課題克服教材集は生徒もそうだが、主には教員に使ってもらわなければならないものである。授業づくりをどうするのかということに、教員が答えてもらわなければならない。そのための授業改善シートがある。来年度、中学校については全ての国語の教員を集めてチェックと研修をする。全ての中学校の国語の教員がこの教材集を使うということになる。
委員 事務局	確実に普及させるのは来年度になるということか。 本年度中には教材集を作った上で、来年度早々に中学校については国語教員を集め、小学校については教育事務所等が学校訪問してチェックをする。
委員長	計画そのものは非常にいい計画だと思う。教材については、作ることはいいが、それをどう使うかが重要である。授業と関連させ、綿密な計画を立て、やった後は点検をしなければいけない。忙しくなるが、言いつばなしではなかなか効果が出ないのできめ細かくやってほしい。
委員長 各委員 委員長	本事件の議決を求める。賛成する委員は挙手をお願いします。 全員挙手 本事件を原案のとおり議決する。